

Ladder

平成22年10月26日 第13号

北海道教育庁学校教育局

参事（生徒指導・学校安全）

中1ギャップ・高1クライシスを解消するために

Q 児童生徒に人間関係を築く力を身に付けさせるために、どのような取組がありますか。

児童生徒に人間関係を築く力を身に付けさせるためには、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れることが考えられます。

その際には、各教育活動の特質を考慮して、授業の中で実施したり、授業以外の活動として実施したりするなどの工夫が必要です。

よりよい人間関係を築くための活動の例

手法の名称	内 容
グループエンカウンター	「エンカウンター」とは「出会う」という意味です。グループ体験を通しながら、他者に出会い、自分に出会います。人間関係作りや相互理解、協力して問題解決する力などが育成されます。集団の持つプラスの力を最大限に引き出す方法といえます。学級作りや保護者会などに活用できます。
ピア・サポート活動	「ピア」は児童生徒「同士」という意味です。児童生徒の社会的スキルを段階的に育て、児童生徒同士が互いに支え合う関係を作るためのプログラムです。「ウォーミングアップ」「主活動」「振り返り」という流れを一単位として、段階的に積み重ねます。
ソーシャルスキルトレーニング	様々な社会的技能をトレーニングにより、育てる方法です。「相手を理解する」「自分の思いや考えを適切に伝える」「人間関係を円滑にする」「問題を解決する」「集団行動に参加する」などがトレーニングの目標となります。 障害のない児童生徒だけではなく、発達障害のある児童生徒の社会性獲得に利用されます。
アサーショントレーニング	「主張訓練」と訳されます。対人場面で自分の伝えたいことをしっかり伝えるためのトレーニングです。「断る」「要求する」といった葛藤場面での自己表現や、「ほめる」「感謝する」「うれしい気持ちを表す」「援助を申し出る」といった他者とのかわりをより円滑にする社会的行動の獲得を目指します。
アンガーマネジメント	自分の中に生じた怒りの対処法を段階的に学ぶ方法です。「きれる」行動に対して「きれる前の身体感覚に焦点を当てる」「身体感覚を外在化しコントロールの対象とする」「感情のコントロールについて会話する」などの段階を踏んで怒りなどの否定的感情をコントロール可能な形に変えます。 また、呼吸法、動作法などリラックスする方法を学ぶやり方もあります。

※生徒指導提要（平成22年3月：文部科学省）から抜粋

生徒指導提要

文部科学省は、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、時代の変化に即して網羅的にまとめ、生徒指導の実践に際し教員間や学校間で教職員の共通理解を図り、組織的・体系的な生徒指導の取組を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として「生徒指導提要」を取りまとめました。

特に、第4章では、学校全体で生徒指導を進めるための指導体制の在り方について、第6章では、具体的な生徒指導の進め方について記載がなされています。

北海道教育委員会を通じて、各学校に配布済みですが、近日、書店においても販売される予定となっています。

「Ladder」は学校間の接続を図る「はしご」を意味しています。